

諸方言コーパスに見る格と取り立て  
－九州方言を中心に－

2016年9月19日

「危機言語・方言」研究発表会

国立国語研究所 木部 暢子

## はじめに

- 日本語諸方言の主語・目的語の標示のしかたには、地域により差がある。
- 例えば、青森県弘前市方言は、主語・目的語ともに無助詞が基本、広島市方言や鹿児島県穎娃町方言は、主語を「が」で、目的語を「を」で標示するのが基本、東京方言や福岡県北九州市方言は、主語は「が」で標示するが、目的語は「を」または無助詞で標示する。
- 本発表では、助詞が義務的に現れる鹿児島県穎娃町方言と、助詞が出現したりしなかったりする福岡県北九州市方言を取り上げ、タイプの異なる2方言において、格と取り立てがどのように標示されるのかについて考察する。

# 発表の構成

1. 日本語諸方言の主語・目的語の標示形式の地域差
2. 福岡県北九州市方言の目的語の標示
  - － 「を」と無助詞形が相半ばする方言
3. 鹿児島穎娃町方言の目的語の標示
  - － 「を」が義務的に現れる方言
4. まとめ

# 日本語諸方言の主語・目的語標示形式の地域差

|     |     | 無助詞        | 助詞あり                                    | 合計        | 備考  |
|-----|-----|------------|---|-----------|-----|
| 弘前  | 主語  | 98(84.5%)  | ガ 18(15.5%)                             | 116(100%) |     |
|     | 目的語 | 102(94.4%) | ゴト 6(5.6%)                              | 108(100%) |     |
| 東京  | 主語  | 10(7.4%)   | ガ 126(92.6%)                            | 136(100%) |     |
|     | 目的語 | 35(43.2%)  | オ 46(56.8%)                             | 81(100%)  | 保留7 |
| 羽咋  | 主語  | 6(14.6%)   | カ <sup>o</sup> 15(36.6%)    ア 20(48.8%) | 41(100%)  |     |
|     | 目的語 | 55(64.7%)  | オ 30(35.3%)                             | 85(100%)  |     |
| 大阪  | 主語  | 25(22.5%)  | ガ 86(77.5%)                             | 111(100%) |     |
|     | 目的語 | 57(62.0%)  | オ 35(38.0%)                             | 92(100%)  |     |
| 広島  | 主語  | 4(2.2%)    | ガ 181(97.8%)                            | 185(100%) |     |
|     | 目的語 | 14(8.2%)   | オ 156(91.8%)                            | 170(100%) | 保留7 |
| 北九州 | 主語  | 7(8.4%)    | ガ 76(91.6%)                             | 83(100%)  |     |
|     | 目的語 | 21(61.8%)  | オ 13(38.2%)                             | 34(100%)  |     |
| 鹿児島 | 主語  | 2(1.6%)    | ガ 126(98.4%)                            | 128(100%) |     |
|     | 目的語 | 5(5.7%)    | オ 82(94.3%)                             | 87(100%)  |     |

# 福岡県北九州市方言の目的語の標示

|     | 無助詞       | を         | 合計        |
|-----|-----------|-----------|-----------|
| 目的語 | 75(47.8%) | 82(52.2%) | 157(100%) |
| 経由地 | 3(23%)    | 10(77%)   | 13(100%)  |

経由地の例

1 089 000 A ナナマガリ コシチ イキヨッタヤロー。  
七曲 [を] 越して行っていただろう。

6 149 000 A ンモー モト アンター エンターノ ドテノ イチバン シタガワオ  
んもう 昔 あんた 堰堤の 土手の一番 下側を  
トーッチョッテ コーマイ バシャガ エンヤラヤット トール。  
通っていて 小さい 馬車が えんやらやっと 通る。

# 福岡県北九州市方言の目的語の標示

## 分析の視点

1. 目的語と動詞の隣接性

2. 目的語の性質

(1) 指示詞

(2) 限定性

3. 文体

## 目的語と動詞の隣接性

|       | 無助詞 | を  | 合計  |
|-------|-----|----|-----|
| 目的語合計 | 75  | 82 | 157 |
| 隣接    | 74  | 55 | 129 |
| 非隣接   | 1   | 27 | 28  |

## 目的語と動詞の隣接性

|       | 無助詞 | を  | 合計  |
|-------|-----|----|-----|
| 目的語合計 | 75  | 82 | 157 |
| 隣接    | 74  | 55 | 129 |
| 非隣接   | 1   | 27 | 28  |

→ 目的語と動詞が隣接するときは無助詞または「オ」で目的語を標示し、隣接しないときは「オ」で目的語を標示する。



無助詞

- 隣接 1 008 000 A モー ソノ オー オリヤー イマー アスコラヘンニ  
もう その 「おお 私は 今 あそこらへんに  
タキモン カリー イキョライ チ チューチ  
薪 [を] 刈りに 行ってるぞ」 × と
- 非隣接 2 022 000 B ヒョーバン ヨー タテチョル バイ。  
評判 [を] よく たてている よ。

を

- 隣接 1 058-001 C アノー X6チャント フタリデ ゾーリオ ハイテ  
あの X6ちゃんと 二人で 草履を 履いて
- 6 075 003 A ヨー アソコデ イシオ トッタヤロー。  
よく あそこで 石を 採っただろう。
- 6 136 000 B サカナツリノ ハリオ ウリヨッタ。  
魚釣りの 針を 売っていた。
- 非隣接 1 239 001 B アノー オリオマデ スミー ウリー イキヨッタ。  
あの 折尾まで 木炭を 売りに 行っていた。
- 4 327 000 A ナンカ アノー コメオ コーヤッテ ソノー  
なんか あのう 米を こうして そのー  
コメオ ニヒョー カルーチカラ  
米を 2俵 背負ってから
- 5 239 001 B ドーシテ ホーコーオ アノ マチガエン カネー。  
どうして 方向を あの 間違えない かねえ。

## 目的語の性質 (1) 指示詞

|       | 無助詞 | を  | 合計  |
|-------|-----|----|-----|
| 目的語合計 | 75  | 82 | 157 |
| 指示詞   | 8   | 15 | 23  |
| ～する   | 5   | 0  | 5   |

→ 指示詞が「オ」をとりやすいということはない。  
「アレスル」が慣用句として多用される。

## 無助詞

6 152 001 B デオータラ ドーシテ コレ カワソーカト オモーテ  
出会ったら どうして これ [を] かわそうかと 思って

1 330 000 A ナカナカ アレ ショッタラ  
なかなか あれ [を] [重箱に] していると

1 349 002 A イネノ アレ スル トキジャケー チュチ  
稲の あれ [を] する 時だから といっ

## を

1 326 009 A ソレオ モー アレナ モローチ ショッタガナー。  
それを もう あれね もらって していたけどね。

4 381 000 B ソレカラ アンタ アレオ ツクルチュータラ オイサン  
それから あんた あれを 作るといったら おじさん

## 目的語の性質 (2) 限定性

|       | 無助詞 | を  | 合計  |
|-------|-----|----|-----|
| 目的語合計 | 75  | 82 | 157 |
| NのN   | 4   | 9  | 14  |
| 修飾語+N | 2   | 6  | 7   |
| (合計)  | 6   | 15 |     |

→ 目的語が名詞や形容詞で限定されると、「オ」をとりやすい。

NのN 無助詞

1 033 000 B アラマシノ コトバ ツカイヨッタ ソラー モー  
 粗雑な ことば [を] 使っていた それは もう  
 6 232 000 A オシオイトリノ ナワ シマヤー  
 お汐井取りの 縄 [を] しまえば

NのN を

2 1 002 A 「ハイ。 タンクノ ソージオ シタ カー。  
 「おい。 [灯油入れの] タンクの 掃除を した か。  
 4 345 006 A ミセノ シーレオ シテナ  
 店の 仕入れを してね。  
 5 207 000 A タケノコノ メオ クイ キヨッタガ  
 竹の子の 芽を 食べに 来ていたが

# 目的語の性質 (2) 限定性

## 修飾語+N 無助詞

1 183 003 B ワタシドモ アスコニ アノー オヤジガ アノー  
 私など あそこに あの 父親が あの  
 ホニューショノ アノ ヤマ キリトルトニ  
 ほ乳所の あの 山 [を] 切り取るのに

1 307-000 B イマ アンタ オーキナ カオ シテ ミンナ モライヨルケ  
 今 あなた 大きな 顔 [を] して みんな もらっているから

## 修飾語+N を

1 058 001 C X7ノ アノ ババサンガ キレイナ ゾーリオ ツクリヨッタヨネ。  
 X7の あの おばあさんが きれいな 草履を 作っていたよね。

5 007 001 B アラマシナ コトバオ ツカイヨッタ。  
 荒々しい 言葉を 使っていた。

5 069 000 D イマー ドンナ アソビオ シヨルジャロー カネ。  
 今は どんな 遊びを しているのだろうか かね。

# 文体

福岡県北九州市

|       | 無助詞 | を  | 合計  |
|-------|-----|----|-----|
| 目的語合計 | 75  | 82 | 157 |

→ 共通語的な文脈では、「オ」が使われる。

を

5 23 000 D ソレデモ ヤッパ コドモカラ 「ヒョージュンゴオ  
それでも やはり 子供から 「標準語を  
ツカイナサーイ。」  
使いなさい。」

5 332 001 A ナカノ ホーニ アノー ミミズオ イレテデス ナ。  
中の 方に あのー ミミズを 入れてです ね。

6 116 007 A チョーセイオ ヒータデス ヨネー。  
町制を ひいたです よねえ。

# 福岡県北九州市方言のまとめ

## 1. 目的語と動詞の隣接性

→隣接するときは、無助詞または「オ」で目的語をマークし、隣接しないときは、「オ」で目的語をマークする。

## 2. 目的語の限定性

### (1) 指示詞

→指示詞が「オ」をとりやすいということはない。

### (2) 限定性

→目的語が名詞や形容詞で限定されると、「オ」をとりやすい。

## 3. 文体

→共通語的な文脈では、「オ」が使われる。

# 鹿児島県頴娃町方言の目的語の標示

鹿児島県頴娃町

| 無助詞     | を         | をば      | 合計       |
|---------|-----------|---------|----------|
| 5(5.7%) | 78(89.7%) | 4(4.6%) | 87(100%) |

## 無助詞

- 138 000 C マン ナッダゲ チュッセー アイ セダバツ  
 まあ なるだけ と言って あれ [を] したけど
- 157 000 B X24ダ ワガエデー アイ ショッタバツ  
 X24たちは 自宅で あれ [を] していたが
- 442 000 B X47カ° オイ チカマユンナ チュバツ チカマエツソラ  
 X47が 私 [を] 捕まえるな と言うけれど 捕まえてね
- 071 000 A ガッチュイ X16サン ミーコ° チャイカ° チュ ユダチュ。  
 まるで X16さん [を] 見るようだ」と 言ったそうだ。
- 331 000 C X38サンチュワ イマ ミセ ヤッドカ° ナー。  
 X38さんという人は 今 店 [を] やっているよね。

# オバ

鹿児島県穎娃町

| 無助詞     | を         | をば      | 合計       |
|---------|-----------|---------|----------|
| 5(5.7%) | 78(89.7%) | 4(4.6%) | 87(100%) |

→ 取り立てのときには「オバ」が使われる。

オバ

- 308 000 C ウエー X31サンカ° イッ トギナ ユッカ° フッタモン  
ええ X31さんが 行く 時は 雪が 降ったもの  
ソセッ ソントギナ コン チカタビモ ノシテ  
そして その時には この 地下足袋も なくて  
アダイケ° ン オトサンカ° トオバ ヤッテ  
私の家の おとうさんののを やって
- 493 000 A エー ウッカン チュトオバ モッタイ ハラ  
ええ ウッカン というのを 持ったり ほら
- 405 000 C マーン カワン ウエニ アユバ ハッテナ ハラ  
まあ 川の 上に あれを 張って ほら
- 479 000 A アユバ モッ ハシッイツムンチャッタチャニー  
あれを 持って 走っていくものだったのだね



# 目的語と動詞の隣接性

→ 目的語と動詞が隣接してもしなくても、「オ」で目的語を標示する。

## 隣接

399 000 A ミチュ ヒッチョッタヂェ ヨガッタワケ°  
道を 知っていたから よかったのだ

460 000 B チッタ トシュ トッチョランニヤ  
少しは 年を とっていなくては

## 非隣接

189 000 B メヂュラシ ゼンニュ フド モロガー ナッタヂャ ホラ。  
たいへん お金を たくさん もらえるように なったよ ほら。

229 000 A カイモンザンオ モクヒョーニ シッセー ヤッキオッタッチャ  
開聞岳を 目標に して やってきていたのだ  
ハラニー。  
ほらね。

# 目的語の性質 (1) 指示詞

→ ソイは「オ」で、アイは「オバ」で標示する。無助詞の時もある(?)。

ソイ

082 000 B ヤッパイ オレワ ソイオ キッダサンチャッタ  
 やはり 私は それを 聞き出さなかった

157 001 B ソイオ モッチョッタヂェ ホラ マチガイワ ネワチュ。  
 それを 持っていたので ほら 間違いは ないという。

アイ

405 000 C マーン カワン ウエニ アユバ ハッテナ ハラ  
 まあ 川の 上に あれを 張って ほら

479 000 A アユバ モッ ハシッイツムンチャッタッチャニー  
 あれを 持って 走っていくものだったのだね

138 000 C マン ナッダゲ チュッセー アイ セダバツ  
 まあ なるだけ と言って あれ [を] したけど

157 000 B X24ダ ワガエデー アイ ショッタバツ  
 X24たちは 自宅で あれ [を] していたが

# 目的語の性質 (2) 限定性

→ 限定のありなしにかかわらず、「オ」で標示する。

NのN

283 000 A クンロットーノ ズイホーショーオ モロダッチャハラニー。  
勲六等の 瑞宝章を もらったからね。

限定

452 000 B ソントギ ベッナシガ° アン フトガ モチャ ナク° ットガ°  
その時 別の人 が あの 大きな 餅を 投げる人が

392 000 C X45サンガ° アン コマカ° カラダオ シチョッ カンシン  
X45さんが あの 小さな 体を していて 感心  
チャッタ チュコッチャッタドハラ  
だった ということだったよね

# 鹿児島県穎娃町方言のまとめ

0. 目的語は「を」で標示する。
1. 目的語と動詞の隣接性
  - 目的語と動詞が隣接してもしなくても、「オ」で目的語を標示する。
2. 目的語の限定性
  - (1) 指示詞
    - ソイは「オ」で、アイは「オバ」で標示する。無助詞の時もある(?)。
  - (2) 限定性
    - 限定のありなしにかかわらず、「オ」で標示する。
    - 取り立てのときには「オバ」が使われる。
    - 取り立てにアクセントが関係しているか？

# 福岡県北九州市方言のまとめ

0. 目的語を無助詞または「を」で標示する。
1. 目的語と動詞の隣接性
  - 隣接するときは、無助詞または「オ」で目的語をマークし、隣接しないときは、「オ」で目的語をマークする。
2. 目的語の限定性
  - (1) 指示詞
    - 指示詞が「オ」をとりやすいということはない。
  - (2) 限定性
    - 目的語が名詞や形容詞で限定されると、「オ」をとりやすい。
3. 文体
  - 共通語的な文脈では、「オ」が使われる。

ご清聴有難うございました。